



2024.5.14

2024年3月期 決算説明会資料

セイノーホールディングス株式会社 (9076)

本日お伝えしたいこと



- 2024年3月期は、国内の**輸送物量の低迷が続き、営業利益は前年比約▲18%と減益**になりました。企業価値向上を掲げたロードマップ2028の初年度は、十分な業績を出すことはできませんでした。一方で、資本政策については、**300億円の自社株取得を実行、配当もDOE4%となる年間配当100円（前年度は56円）を予定**しています。
- **2025年3月期については、営業利益32%の増益**を予想しています。運賃の適正化は一定程度合進んでいますが、物量の低迷が続き、回復は道半ばです。お約束通り、DOE4%は継続し、成長投資と株主還元のバランスを追求します。
- 個別の業績回復の取り組みに加えて、トナミ運輸様、日本郵便様との協業を進めるなど、**Team Green Logisticsの動きを加速**しています（28ページご参照）。日本が直面している労働力不足や環境問題に対応するためにも、各社が持続性のある利益を計上していくためにも**業界内での協業、再編が不可欠**だと考えています。
- ロードマップ2028の進捗については、別途、**IR Dayの開催**（日程未定）を企画しており、後日改めてご案内をさせていただきます。

目次

01

2024年3月期 決算概要

02

2025年3月期 業績予想

03

ロードマップ2028における重点施策

01

2024年3月期 決算概要



P / L : 増収・減益



売上は増収となったものの、特積みの物量減の影響で営業利益は減益

単位:百万円	23.03	24.03	前年比	業績予想比
売上高	631,507	642,811	+1.8%	+0.7%
売上総利益	76,509	73,597	▲3.8%	
(粗利益率)	12.1%	11.4%	▲0.7pt	
販売管理費	48,007	50,194	+4.6%	
営業利益	28,501	23,403	▲17.9%	▲6.1%
(営業利益率)	4.5%	3.6%	▲0.9pt	
親会社株主に帰属する 当期純利益	19,013	14,561	▲23.4%	▲9.6%
EPS (円)	104.87	83.72	▲20.2%	▲9.5%
ROE	4.3%	3.3%	▲1.0pt	

売上高

前年比 **+1.8%**[増収] (業績予想比 **+0.7%**)

輸送事業は物量減により減収となったものの、自動車販売事業などの増収により前年比11,304百万円の増収
(業績予想比4,701百万円の増収)

営業利益

前年比 **▲17.9%**[減益] (業績予想比 **▲6.1%**)

輸送事業での物量減による減益を、自動車販売事業などの増益で一部をカバーしたものの、前年比5,098百万円の減益
(業績予想比1,514百万円の減益)

当期純利益

前年比 **▲23.4%**[減益] (業績予想比 **▲9.6%**)

輸送事業での減益に加え、持分法投資利益の減少などもあり、前年比4,451百万円の減益
(業績予想比1,539百万円の減益)

事業の概要：輸送事業は減収減益



単位:百万円	売上高 (前年比) 【業績予想比】	営業利益 (前年比) 【業績予想比】	24.03 事業概況	KPI
輸送事業	470,237 (▲0.9%) 【▲0.6%】	15,273 (▲30.2%) 【▲12.0%】	<p>売上高 ロジスティクスの伸長に加え、新規連結の効果はあったものの、特積みの物量が3.5%減少したこともあり減収</p> <p>営業利益 特積みの物量の減少により、売上が伸び悩んだこともあり減益</p>	<p>特積 (前年比) 物量 96.5% (日当り発送重量) kg単価 101.5% (一般)</p> <p>ロジスティクス (前年比) 売上 106.3% (発送運賃除く)</p> <p>貸切 (前年比) 売上 102.4% (西濃運輸 105.9%)</p>
自動車販売事業	108,663 (+15.3%) 【+7.7%】	5,808 (+23.3%) 【+10.6%】	<p>売上高 メーカーの生産台数の回復により、完成車の納車が進んだことで増収</p> <p>営業利益 販売台数の回復による売上増加に加え、トラック販売でのメンテナンス利益の増加により増益</p>	<p>新車販売台数 (前年比) 乗用車 17,865 台 (110.8%) トラック 2,057 台 (118.9%)</p>
物品販売事業	35,747 (+6.7%) 【+1.7%】	948 (+18.5%) 【±0.0%】	燃料価格の上昇に加え、家庭紙販売やふるさと納税返礼品が好調であったこともあり、増収・増益	
不動産賃貸事業	2,246 (+2.5%) 【+1.1%】	1,648 (+2.1%) 【+0.1%】	ボヌール芝浦・大井などの新規賃貸物件が寄与し、増収・増益	
その他	25,917 (▲3.6%) 【▲2.7%】	1,394 (+18.8%) 【+7.1%】	住宅販売での売上減などもあり微減収となったものの、情報サービスや人材派遣業などが増益に寄与	

連結営業利益の増減要因（前年比）



貸切・ロジスティクスの伸長や新規連結の効果は継続し、
四半期毎に物量の減少幅は縮小したものの、前年割れは続き、営業利益は減益

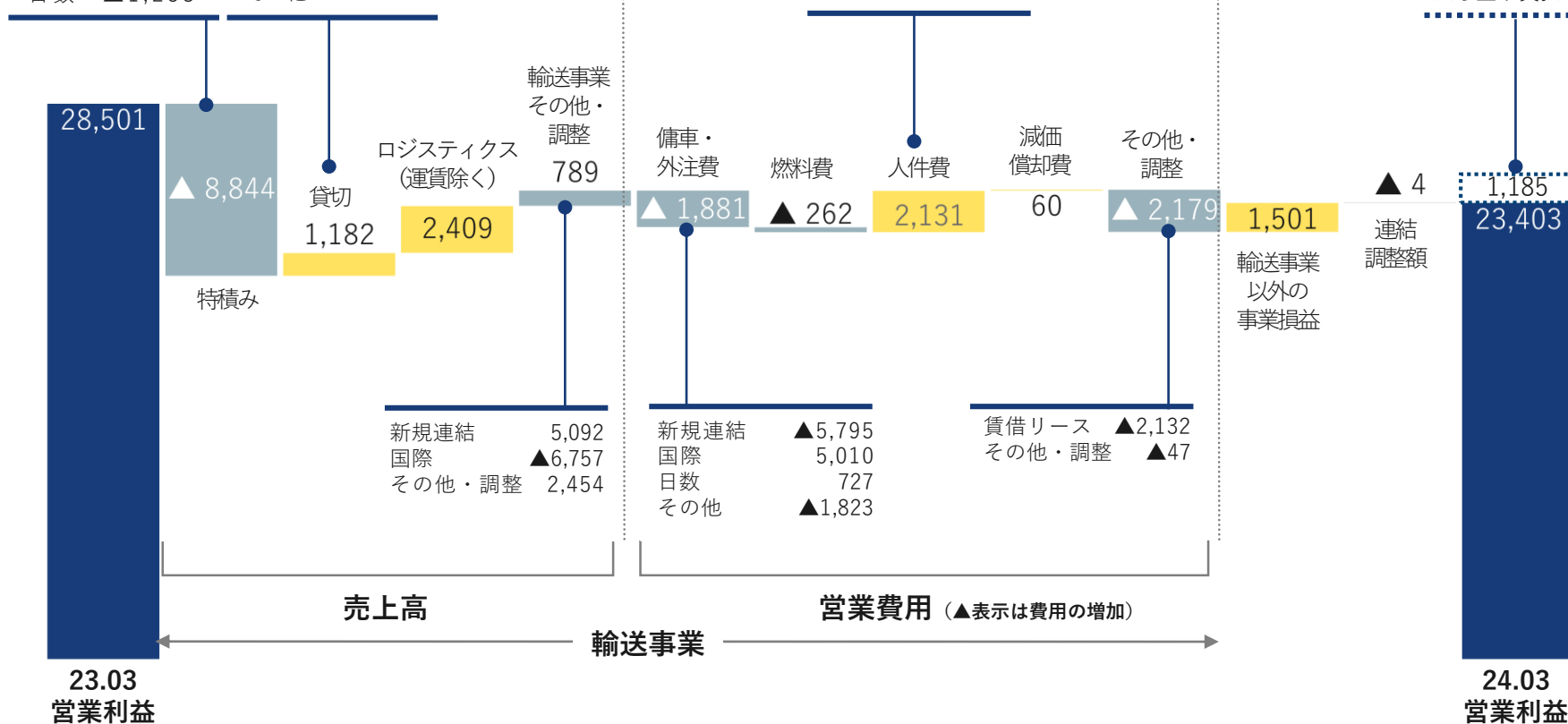
（単位：百万円）

物量 ▲11,011
単価 2,896
S C 509
日数 ▲1,238

新規連結 1,104
その他 78

新規連結 ▲1,566
既存会社 3,698

新規連結
立ち上り負担



営業費用は増加



人件費の減少はあったものの、自動車販売事業での販売台数の増加や、新規連結の影響もあり、営業費用は増加

単位:百万円	23.03	24.03	前年比	コメント
人件費	220,078	219,055	▲1,022 (▲0.5%)	新規連結による影響額 1,566百万円 新規連結を除く影響額は、▲2,589百万円と、業績に連動した結果となっているが、人員の減少も影響している。期末の賞与引当金については、前年並みを計上
燃料費	18,053	18,240	+187 (+1.0%)	第2四半期以降、燃料単価が前年比で上昇したことにより増加
減価償却費	21,554	21,690	+135 (+0.6%)	建物・構築物 +247百万円 車両・運搬具 ▲176百万円 ソフトウェア +68百万円
備車料・取扱手数料・外注費	176,495	178,376	+1,881 (+1.1%)	新規連結による影響額 +5,795百万円 国際運送原価の減少 ▲5,010百万円 その他の影響額 +1,096百万円
その他	166,824	182,044	+15,220 (+9.1%)	自動車販売事業での、車両販売台数の増加に伴う仕入れ代金 14,677百万円の増加
営業費用合計	603,006	619,408	+16,402 (+2.7%)	

キャッシュ・フロー： 仕入債務の増加で営業CFは増加



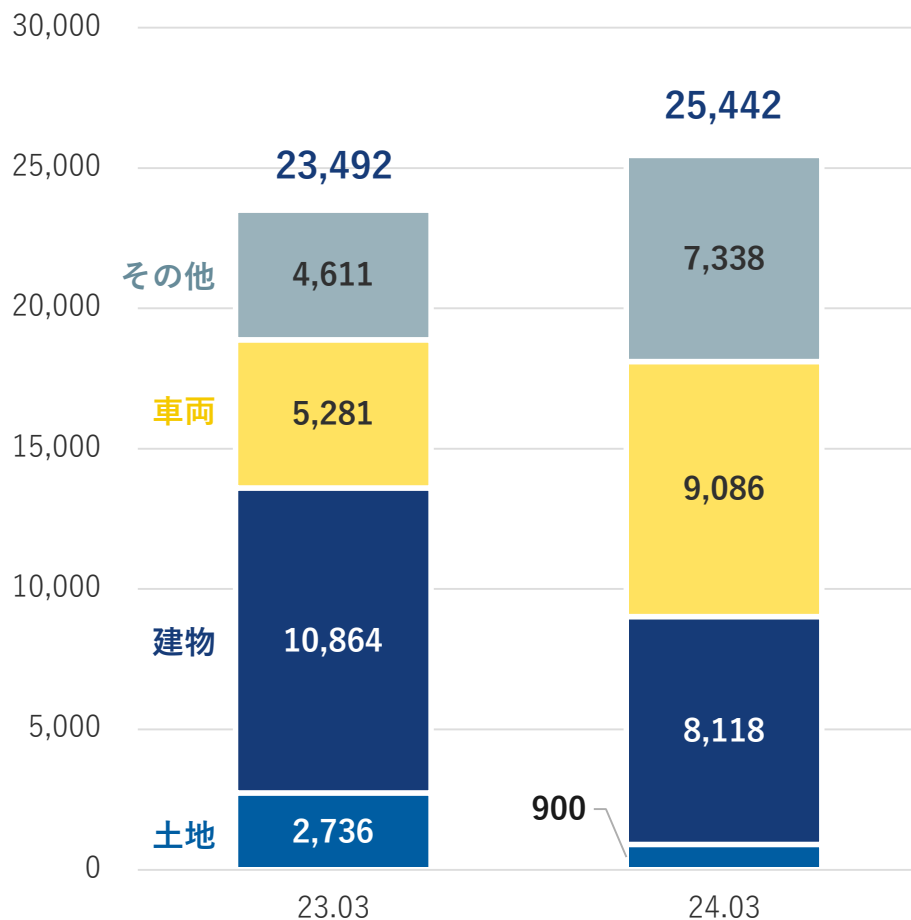
資本政策の遂行もあり、財務活動に使用した資金が大幅増加

単位:百万円	23.03	24.03	増減額	増減要因
営業活動による キャッシュ・フロー	39,274	48,441	+9,166	税金等調整前当期純利益の減少 (▲5,734) 売上債権の増減額 (+3,491) 仕入債務の増減額 (+9,166)
投資活動による キャッシュ・フロー	▲29,589	▲25,509	+4,080	固定資産取得による支出の増減 (+1,529) 固定資産売却による収入の増減 (+617)
財務活動による キャッシュ・フロー	▲8,172	▲48,646	▲40,473	自己株式取得による支出の増減額 (▲29,918) 配当金支払額の増減 (▲10,318)
フリー・キャッシュ・フロー	9,685	22,932	+13,247	
現金及び現金同等物の残高	101,065	75,378	▲25,686	

設備投資： 車両の代替えが進み設備投資は微増



(単位：百万円)



24.03 設備投資の主な内訳

土地	900百万円	
• 西濃運輸 (愛知県清須市)		224百万円
• 西濃運輸 (北陸セントラルLC)		371百万円
建物	8,118百万円	
• 西濃運輸 (横浜支店新築)		2,419百万円
• 西濃運輸 (錦糸町支店リノベーション)		766百万円
• 岐阜日野※ (美濃加茂支店増改築)		572百万円
	※自動車販売事業	
車両	9,086百万円	
• 西濃運輸 (943台)		6,058百万円
• セイノースーパーエクスプレス (140台)		958百万円
• 九州西濃 (87台)		352百万円
• 四国西濃 (36台)		253百万円
その他	7,338百万円	
• 西濃運輸 (省力機器他)		3,197百万円
• 西濃運輸 (ソフトウェア)		1,002百万円



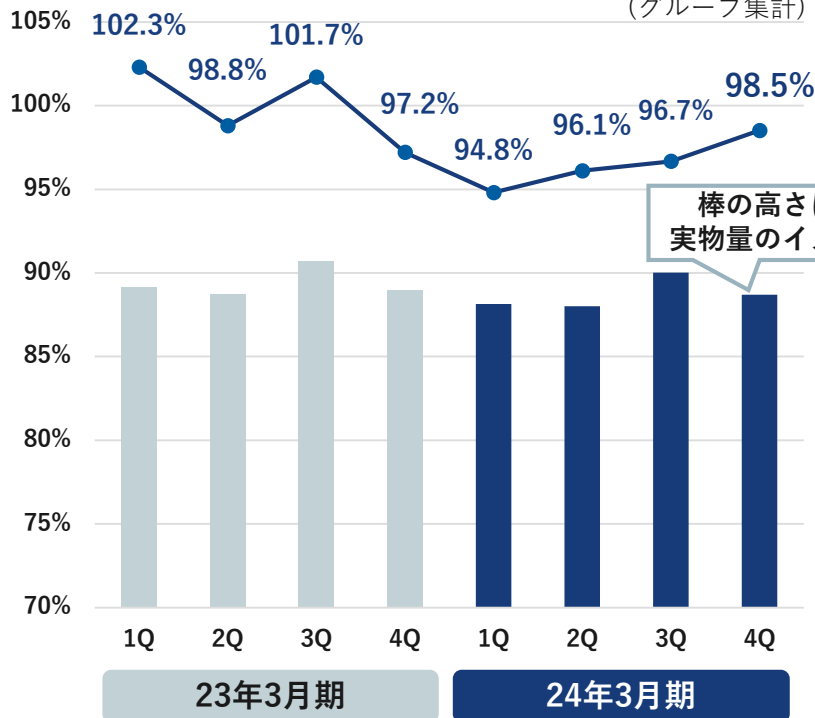
特積み：物量・単価の状況

特積みの物量は

インフレにより減少局面が続くも上向き

日当たり物量（前年同期比）

（グループ集計）

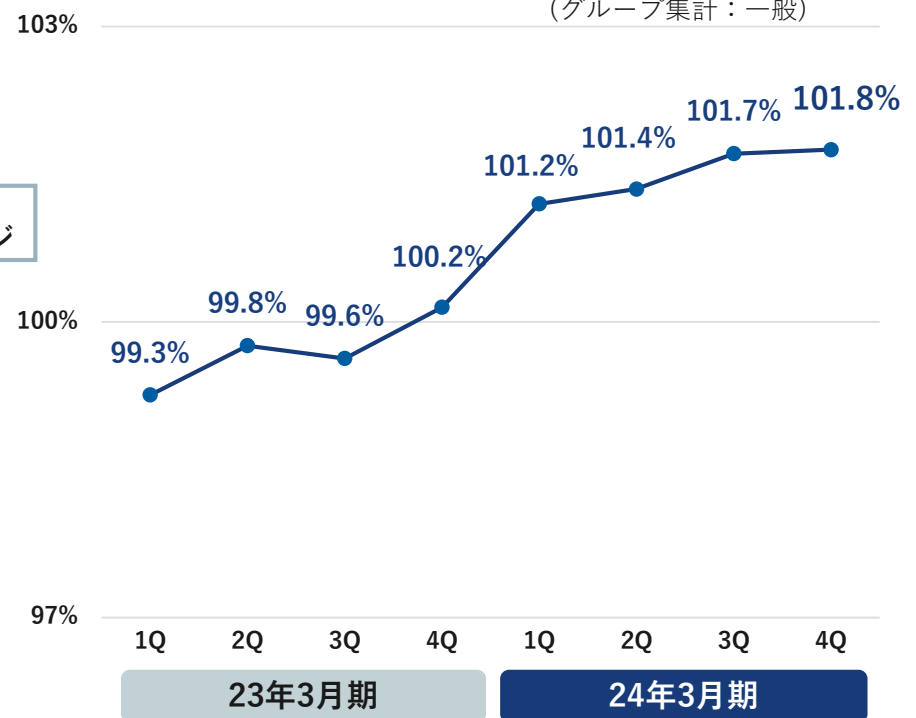


適正運賃収受は進展も

緩やかな単価改善が続く

kg単価（前年同期比）

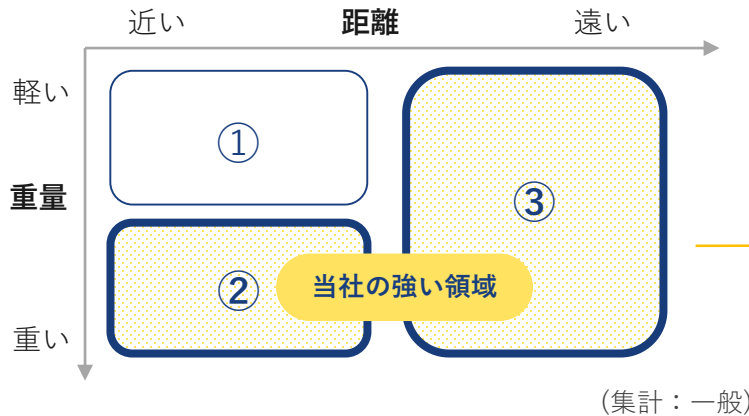
（グループ集計：一般）



適正運賃の收受による単価向上（西濃運輸）



重量・距離帯別領域



(集計：一般)

重量・距離帯別 前年比
(上段：グループ集計、下段：西濃運輸)

重量帯／距離帯	日当り物量	運賃收受率	kg単価
①300kg以下／ 500km以下	95.9% (96.6%)	100.9% (100.0%)	101.0% (100.9%)
②300kg超／ 500km以下	94.7% (95.1%)	100.5% (100.7%)	102.0% (102.2%)
③500km超	94.5% (95.2%)	101.6% (101.3%)	101.8% (101.5%)
全体	95.1% (95.7%)	100.9% (100.7%)	101.5% (101.7%)

施策展開

2024年3月（単月）の前年伸長103%、通期101.9%の伸長に向け、2年以上改定のないお客様を中心に全地帯別での適正運賃收受を展開

結果

23年度kg単価通期前年比（西濃運輸）
目標 **101.9%** 実績 **101.7%**

振り返り

- 2024年3月末時点で103%に設定した目標に対し、102%と1ポイント届かなかった。
- 未達の要因としては、23年度のターゲットに対し、半数の改定に留まったことが影響した。
- 改定荷主の単価改善幅を10%と見込んでいたが、結果は5%に留まった。

ロジスティクス実績

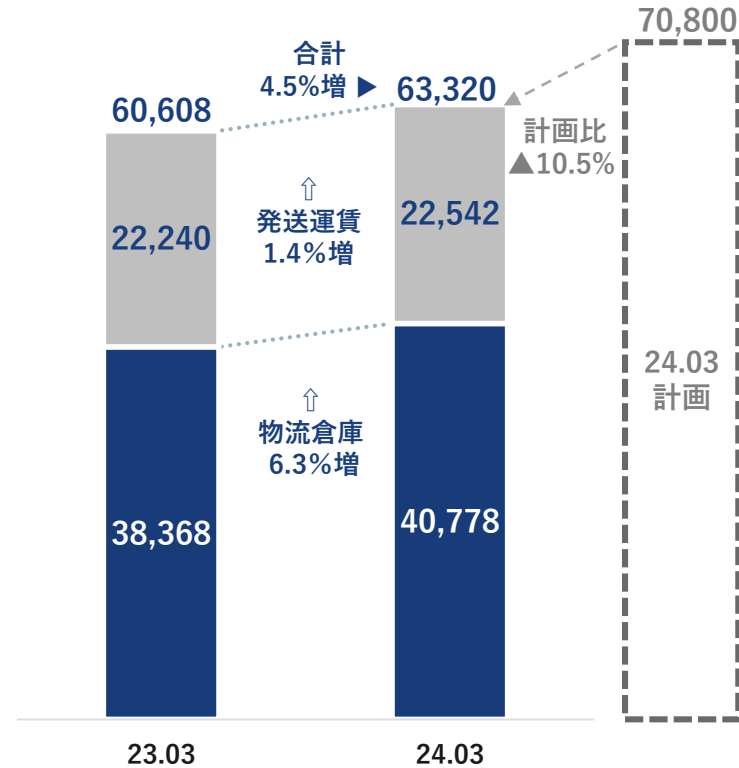
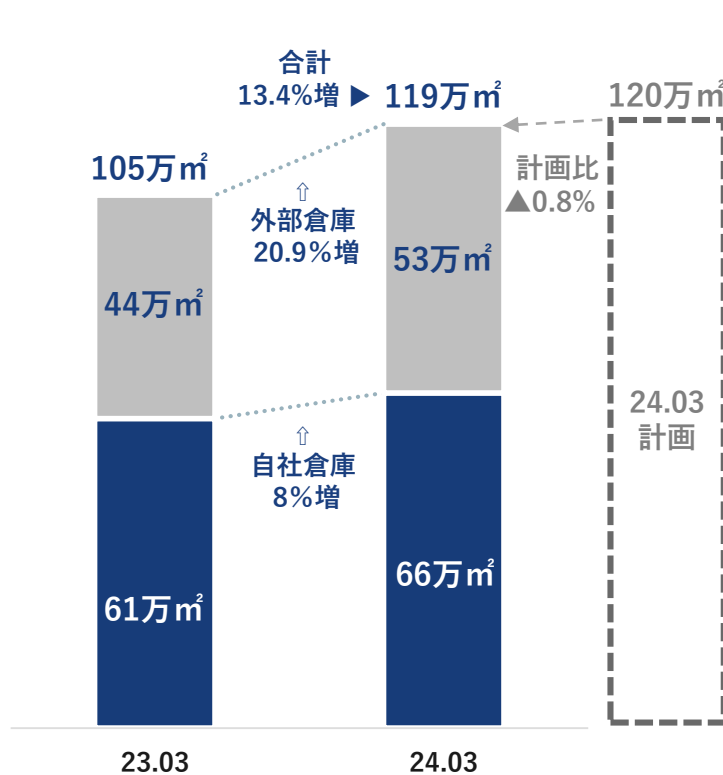


外部倉庫確保の推進により、倉庫面積拡大が図れたことで増収となったが、保管から派生する荷役の取り込みや施設満床に課題が残り、計画に届いていない

(単位：百万円)

■ 自社倉庫床面積 ■ 外部倉庫床面積

■ 物流倉庫売上 ■ 発送運賃売上



※セイノーHDにおける倉庫面積

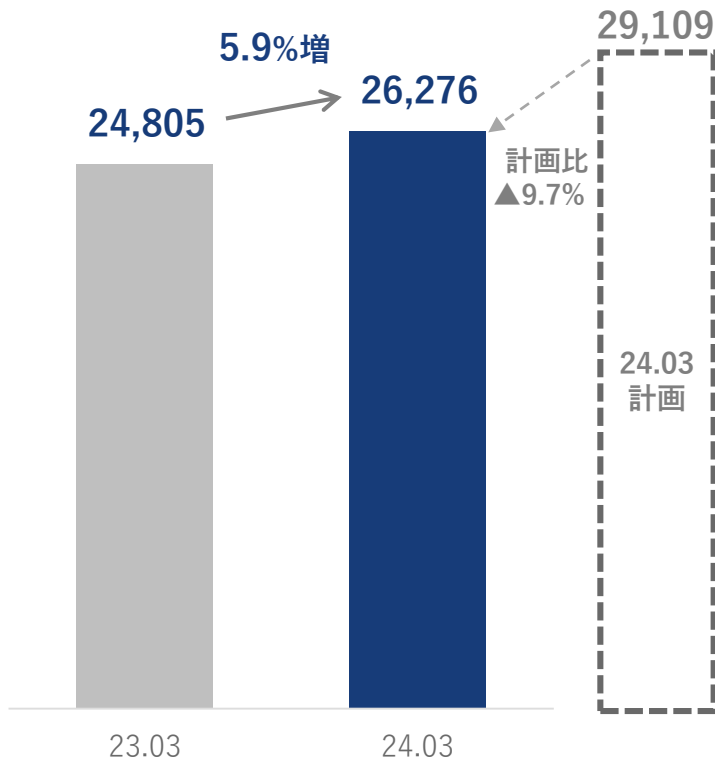
※セイノーHDにおける物流倉庫売上および発送運賃売上の単純合計（管理会計）

貸切実績 (西濃運輸)

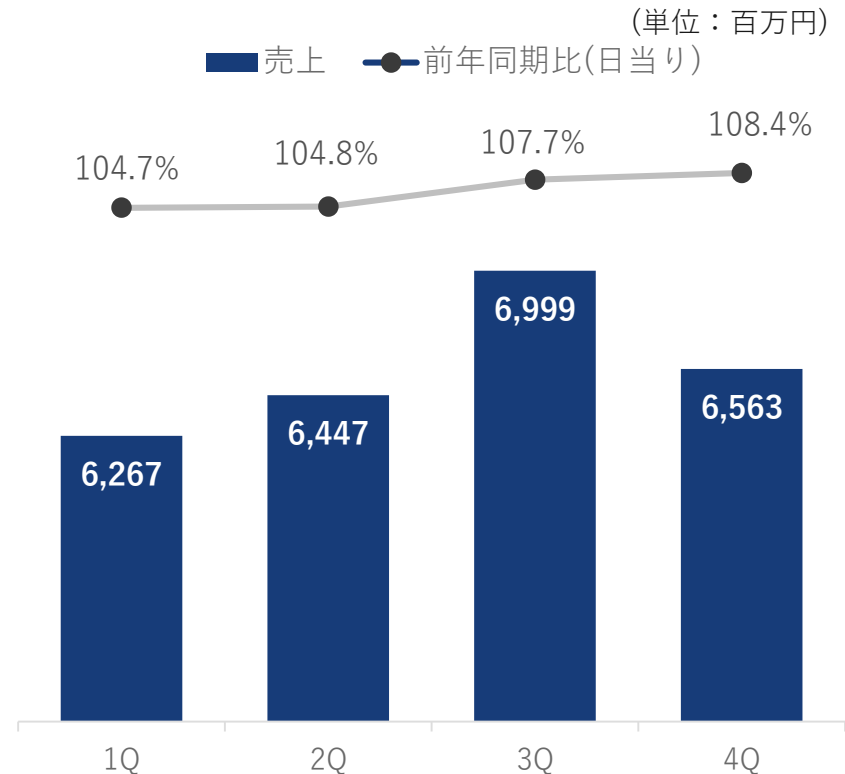


売上は5.9%増と一定の成長は遂げたものの、特積既存荷主からの潜在ニーズを十分に引き出せず、4.2%程の荷主との取引に留まっていることもあり、計画には届いていない

貸切売上 (単位：百万円)



貸切売上 四半期推移 (単位：百万円)



02

2025年3月期 業績予想



2025年3月期 業績予想（通期）



単位:百万円	25.03 (予想)	24.03 (実績)	増減額 (前年)	増減率 (前年)	コメント
売上高	658,700	642,811	+15,888	+2.5%	
輸送事業	485,900	470,237	+15,662	+3.3%	【輸送事業】 物量・単価は、足もと4月の 状況を踏まえて設定 <特積み（西濃運輸）> 物量 99.5%（日当り） 単価 103.9%（一般） 日数 100.0% ※人件費は、賃上げによる増加と、 人員減少による影響をフラットで 想定
自動車販売事業	106,000	108,663	▲2,663	▲2.5%	
物品販売事業	36,100	35,747	+352	+1.0%	
不動産賃貸事業	2,250	2,246	+3	+0.2%	
その他	28,450	25,917	+2,532	+9.8%	
営業利益	30,900	23,403	+7,496	+32.0%	
輸送事業	22,900	15,273	+7,626	+49.9%	【自動車販売事業】 <新車販売台数> 乗用車 17,420台（97.5%） トラック 2,051台（99.7%）
自動車販売事業	5,500	5,808	▲308	▲5.3%	
物品販売事業	1,000	948	+51	+5.5%	
不動産賃貸事業	1,650	1,648	+1	+0.1%	
その他	1,600	1,394	+205	+14.7%	
調整額	▲1,750	▲1,670	▲79	-	
経常利益	32,400	24,496	+7,903	+32.3%	EPS 115.27円
親会社に帰属する 当期純利益	19,400	14,561	+4,838	+33.2%	ROE 4.5%

2025年3月期 業績予想（上期）



単位:百万円	24.09 (予想)	23.09 (実績)	増減額 (前年)	増減率 (前年)	コメント
売上高	317,000	315,510	+1,489	+0.5%	
輸送事業	234,000	232,144	+1,855	+0.8%	【輸送事業】 物量・単価は、足もと4月の 状況を踏まえて設定 <特積み（西濃運輸）> 物量 99.4%（日当り） 単価 102.7%（一般） 日数 98.7%
自動車販売事業	51,000	52,548	▲1,548	▲2.9%	
物品販売事業	17,300	17,250	+49	+0.3%	
不動産賃貸事業	1,130	1,112	+17	+1.6%	
その他	13,570	12,454	+1,115	+9.0%	
営業利益	12,000	11,318	+681	+6.0%	
輸送事業	7,800	6,673	+1,126	+16.9%	【自動車販売事業】 <新車販売台数> 乗用車 8,380台（90.4%） トラック 1,291台（107.0%）
自動車販売事業	2,900	3,353	▲453	▲13.5%	
物品販売事業	400	458	▲58	▲12.8%	
不動産賃貸事業	820	817	+2	+0.3%	
その他	900	802	+97	+12.2%	
調整額	▲820	▲787	▲32	-	
経常利益	12,900	12,215	+684	+5.6%	EPS 44.59円
親会社に帰属する 四半期純利益	7,500	7,441	+58	+0.8%	

適正運賃収受に向けた施策展開 (西濃運輸)



- 2024年4月の速報ベースのkg単価は102.2%（前年同月比）を見込む
- 今期は、通期目標とする105.7%に向け、多少の遅れはあるものの、改善を図りながら進めて行く
- 足もとの状況を踏まえ、業績予想では103.9%を織り込んでいる

施策①

- 管理指標の見直しによる、不採算荷主の明確化と改善
 - ・新たな仕組みを導入し、原票単位での利益の可視化によりターゲットの優先順位を精査
 - ・先期の大手荷主中心の取組みから、中堅荷主までターゲットを拡げて2倍とし、kg単価・物量相関データ活用による適正運賃収受を図る

以上、2点を中心に「的の拡大」、荷主様のご理解を頂きながら「単発でなく段階的な運賃是正」を進めることで、ロードマップ2028の期間中に単価伸長118%（ロードマップ2028期間前比）の達成を目指す

施策②

- 5年振りの改定となる新運賃表「24年運賃」を6月にリリース予定
2024年問題等に対応した新運賃により、適正運賃収受のすそ野を拡げる

中長期的な目線で是正頻度も意識した、適正運賃収受の施策展開を進める

総合窓口を担う「ロジのSEINO」

～ 倉庫拡充について～



- ニーズの高いエリアに対し増床を図り、ロジスティクス領域における更なる成長を図っていく
- 全国パートナーの空き坪情報共有ツール「見つカル倉庫」を活用し、即応性と固定費を抱えない展開も強化
- 自社施設にこだわらない展開を図ることで、成長スピードを加速

2025年3月期 増床計画

施設	自社/賃借	竣工/賃借時期	倉庫面積
LFつくば	賃借	2024年6月	4,749.82 m ²
GLP福岡小郡	賃借	2024年6月	6,192.01 m ²
SSX福岡	賃借	2024年8月	1,652.89 m ²
名古屋市港区	賃借	2024年9月	9,682.50 m ²
亘理倉庫	自社保有	2025年2月	6,242.54 m ²
豊川支店倉庫	自社保有	2025年2月	8,798.10 m ²
計			37,317.86 m ²

上記確定案件に加え、賃借物件については更なる増床を図ることで、
本年度の寄与により一層つなげていく

貸切拡販に向けた施策展開 (西濃運輸)



- 現状は、現行業者への満足度が高く、定期業者の変更までに至らないケースが多かったが、2024年問題を背景に、新たな業者を探す動きが増えてきている

➤ ハコベルの配車力を最大の武器に利用社数の増加、および利用頻度の高い荷主獲得を並行して進める

施策① 裾野を広げる(利用社数1,000社増)

- ・ ウェビナーやメルマガ等のデジタルマーケティングを中心に、利便性の高さを売りに貸切便の認知度を高める事で、利用社数を増やす

施策② 大口荷主の開拓(月間10件程度出荷を抱える荷主400社増)

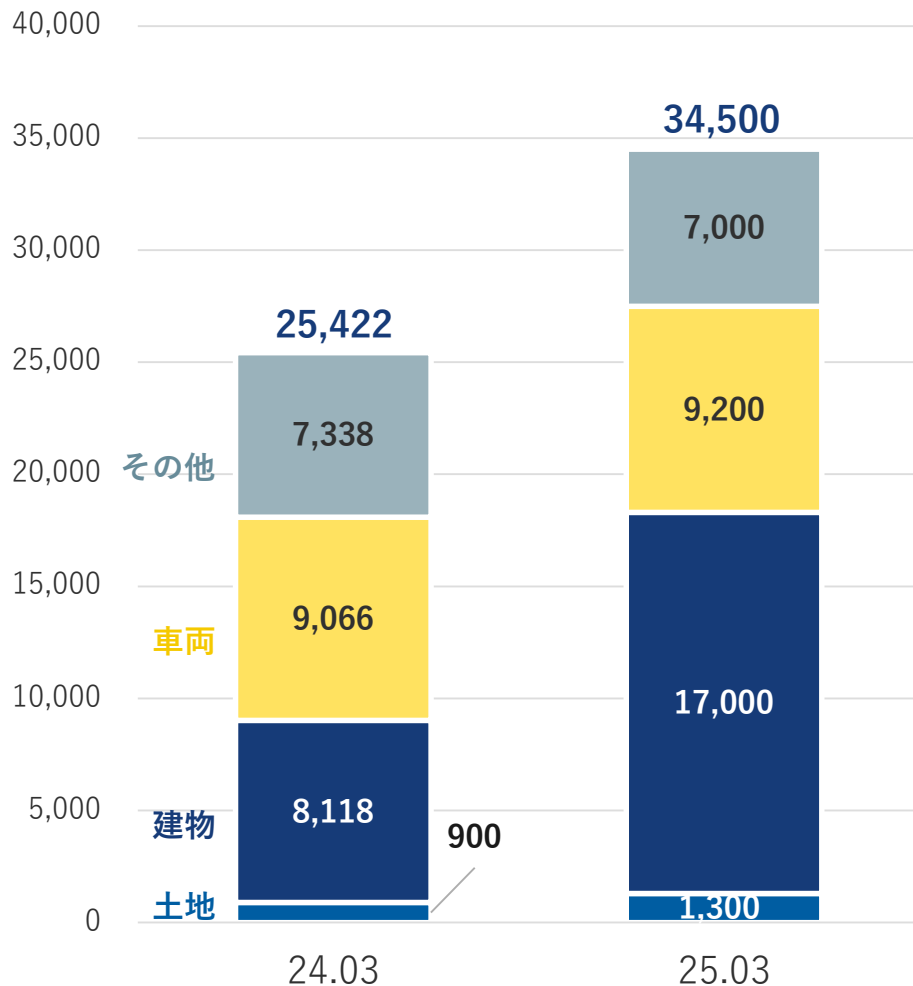
- ・ 定期貸切案件を抱えるお客様に対し、ハコベル社との連携を図り、単に車両の手配に留まらず、配車業務の効率化を図る「ハコベル物流DXシステム」を切り口にお客様の生産性向上にも繋げる
- ・ 積載効率を高めた積合貸切(メガエクス)により、コストパフォーマンスの良い輸送サービスを提供

輸送グループ全社の配車力・提案力を活かす

25.03期 設備投資予想： 建物取得で増加を見込む



(単位：百万円)



25.03 設備投資の主な内訳

土地	1,300百万円	
• 西濃運輸 (愛知県豊明市)		1,259百万円
建物	17,000百万円	
• 西濃運輸 (市川支店新築工事)		5,710百万円
• 西濃運輸 (北陸セントラルLC新築工事)		1,958百万円
• 西濃運輸 (横浜支店新築工事)		1,837百万円
車両	9,200百万円	
• 西濃運輸 (1,147台)		7,900百万円
• セイノースーパーエクスプレス (75台)		432百万円
• 四国西濃 (43台)		273百万円
その他	7,338百万円	
• 西濃運輸 (省力機器他)		4,300百万円
• 西濃運輸 (ソフトウェア)		1,200百万円

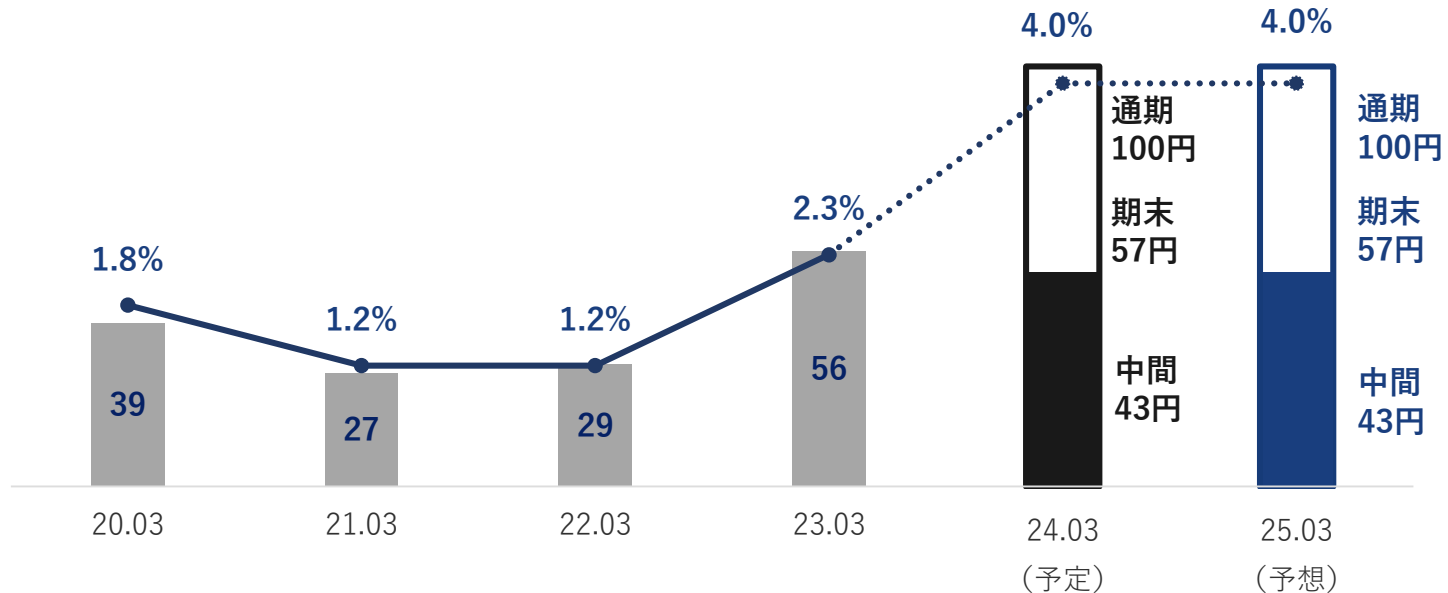
資本政策について



配当方針に変更なし、DOE4.0%配当を継続

- 24.03期より、配当方針をDOE4.0%に変更し、充実した株主還元を実施
- 24.03期の配当金は、通期100円（中間43円・期末57円）を予定し、25.03期の配当金についても、24.03期と同水準を予想
- 資本政策については、成長投資も考慮しつつ、必要に応じて検討

1株当たり配当金（円）とDOEの推移



03

ロードマップ2028における重点施策

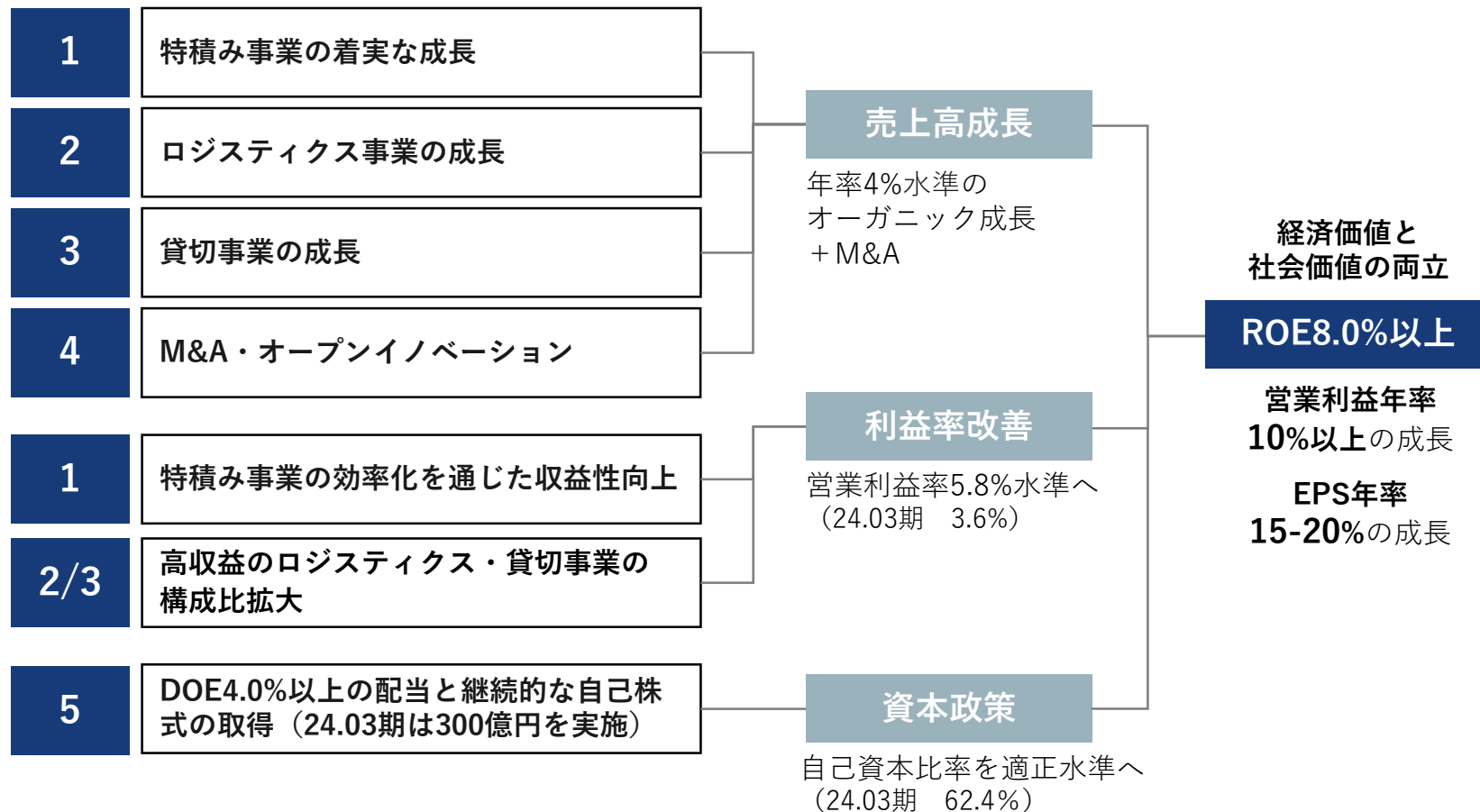


ロードマップ2028 ～ 逆ROEツリー～



稼ぐ力の向上、積極的な株主還元で、3-5年以内にROE8.0%達成を目指す

ROE改善のドライバー



ロードマップ2028 重点施策 ～ 成果と課題 ～



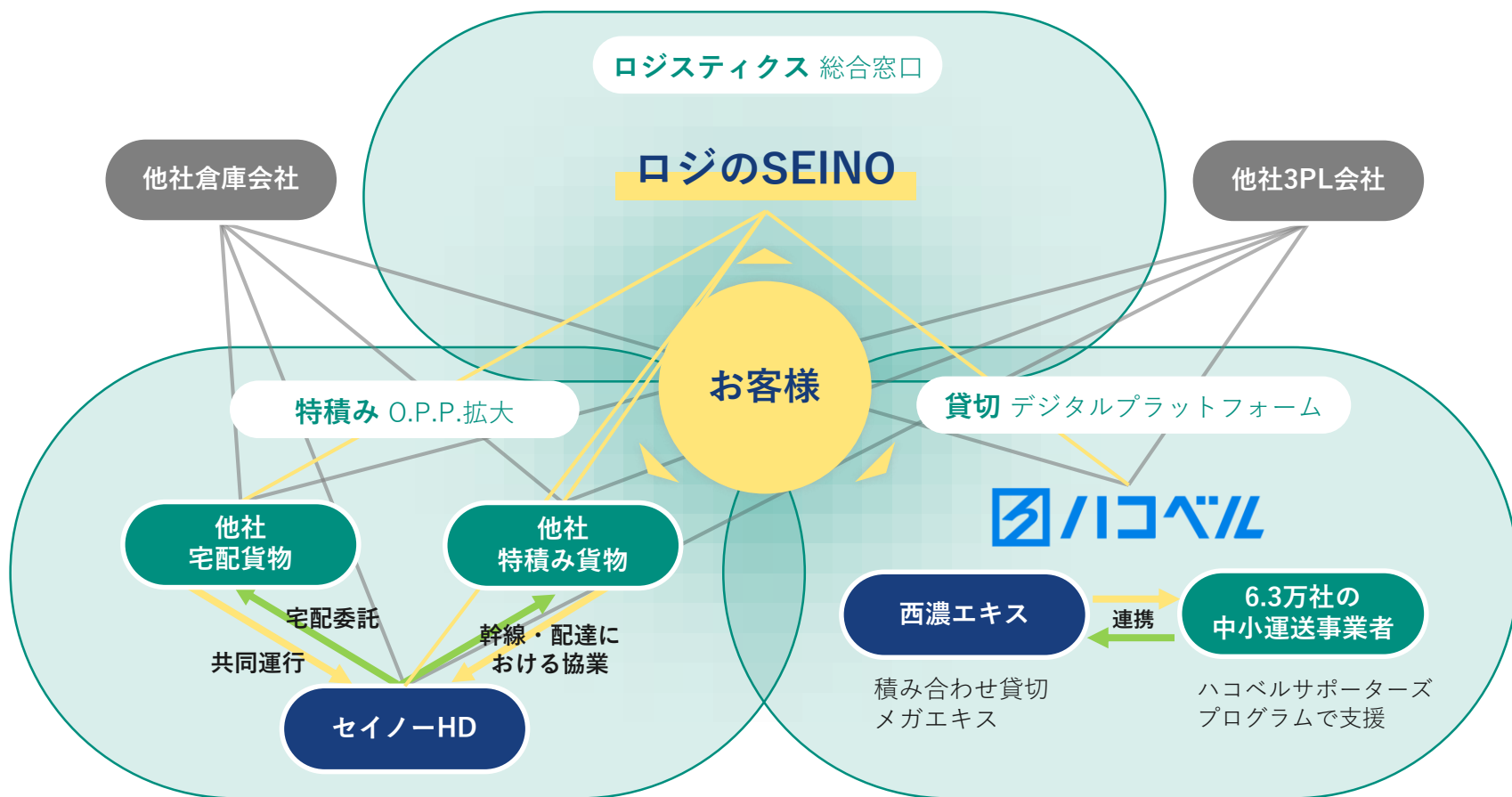
- 特積み事業における物量が落ち込む中、ロジスティクス・貸切領域においては着実に成長
- ロードマップにおける進捗目標に対しては、展開スピードなど、まだまだ対策の余地がある
- 各施策毎、それぞれのKPIを注視していくことで、取組みに対する成長スピードを可視化していく

	成果	課題	注視するKPI
ロジスティクス	<ul style="list-style-type: none">• 床面積 141,557㎡の増床• 特積みの物量が落ち込む中一定の成長を果たした	<ul style="list-style-type: none">• 成長を加速させるフラッグシップとなるクライアントの獲得• お客様のBS/CF改善に寄与するサービス展開	<p>提供価値 在庫回転率など、お客様の経営課題を解決する提案</p> <ul style="list-style-type: none">• 坪数 / 坪当り生産性
特積み	<ul style="list-style-type: none">• 共同輸配送の座組（O.P.P.）が拡大したことによる生産性の向上	<ul style="list-style-type: none">• 適正運賃収受への取組み• 更なる連携の強化	<p>提供価値 運べないリスクを回避</p> <ul style="list-style-type: none">• kg単価 / 物量 <p>共同輸送の拡大により効率性を高める</p> <ul style="list-style-type: none">• ドライバー生産性
貸切	<ul style="list-style-type: none">• ハコベルを活用した貸切事業の成長	<ul style="list-style-type: none">• 定期案件の獲得• 積み合せ貸切の成長• サポートズプログラムの拡大と強化	<p>提供価値 安定した貸切サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none">• 登録事業者数/台数• 配送件数

当社が目指すTeam Green Logisticsの全体像



どの入り口からでも当社はお客様目線で最適なソリューションの提供が可能

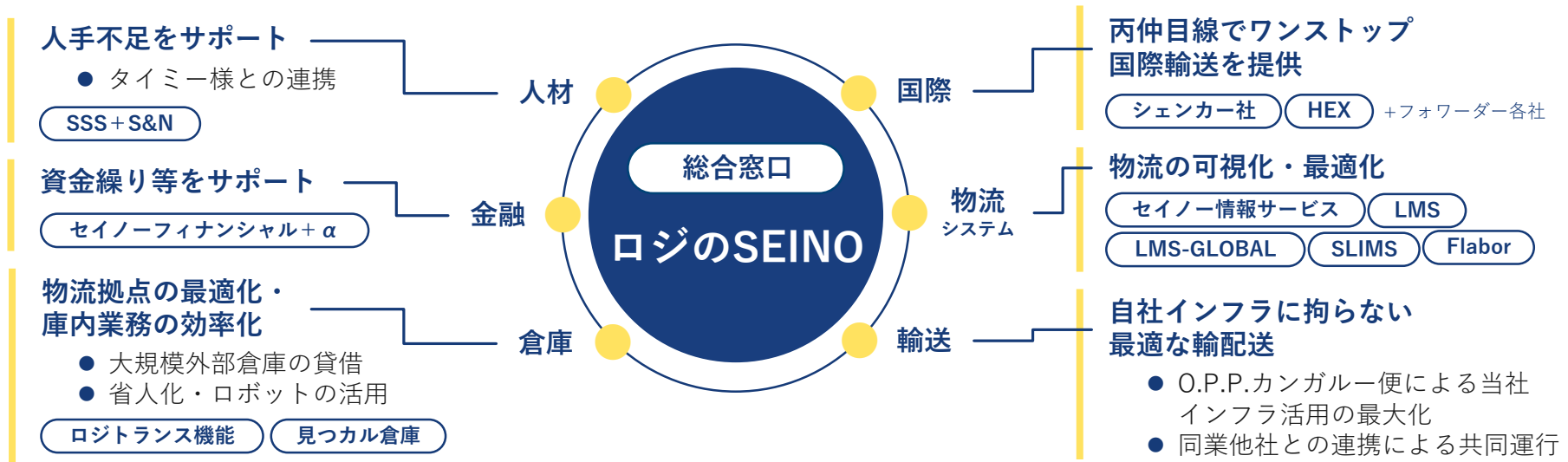


総合窓口を担う「ロジのSEINO」

～ お客様目線でベストソリューション～



- 自前のインフラ・サービスをベースに足りない要素を他社機能を織り交ぜることで価格優位性を担保しつつ、One StopかつNo Stressで提供
- 特積みの全国ネットワークを優位性に垂直・水平展開を進め、価値提供の幅を広げることでお客様の管理部門に成り代わっていく



提供価値の幅を広げ、
お客様のBS/CF改善に
寄与していく

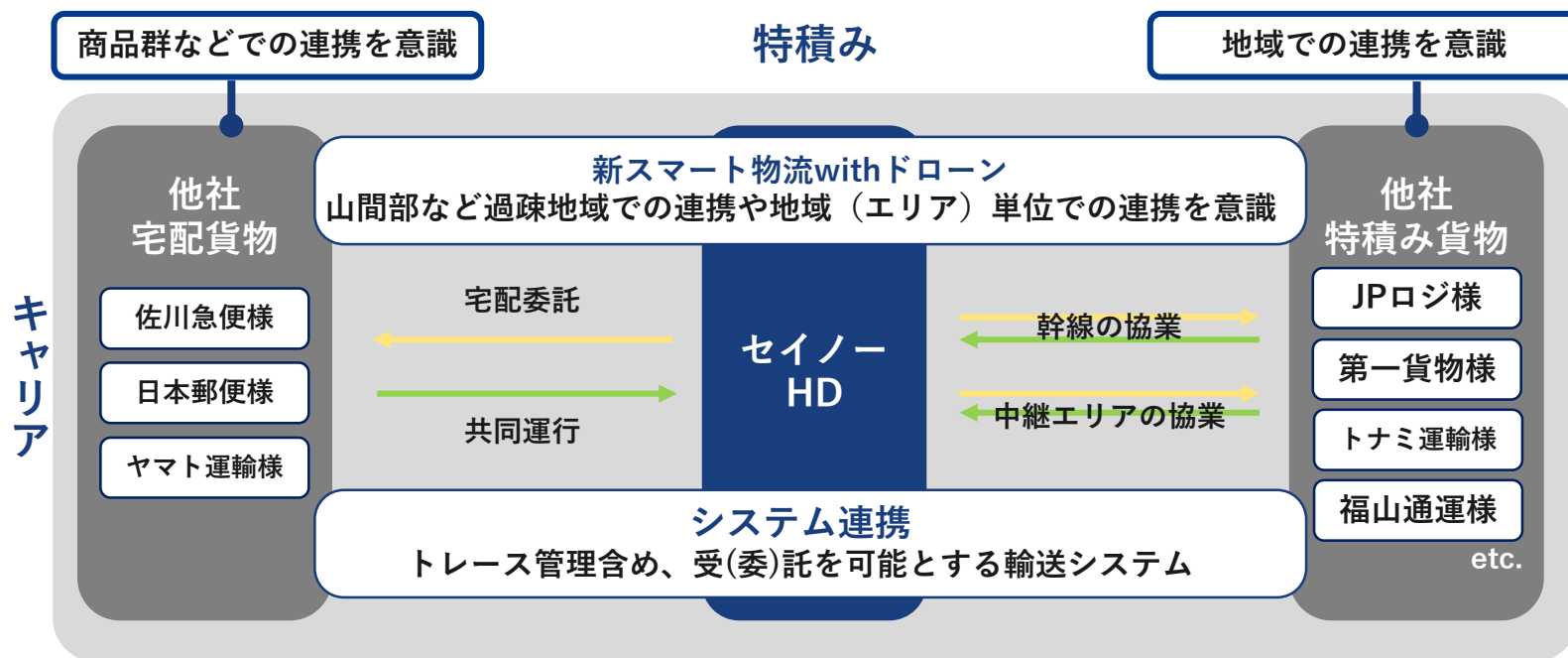
適正在庫や、ファクトリーをはじめとしたお客様に成り代わる付帯作業の受託により、保管効率を向上させることで、坪当たり生産性を高めていく

▶ 今年度坪当たり生産性：前年対比105%～110%を目指す

特積み輸送 ～ O.P.P.の拡大～



- 同業他社と互いに課題を持ち寄り、受委託を進めることで、固定費から変動費へのシフトをはじめとした効率化及び、ネットワークの維持につなげる
- 2024年問題を契機に他社との連携スピードが一気に加速し始めている



- 同業他社から受託した地域のドライバー生産性が向上（2～20%）
- 取扱い重量 前年対比 19.5%の増加

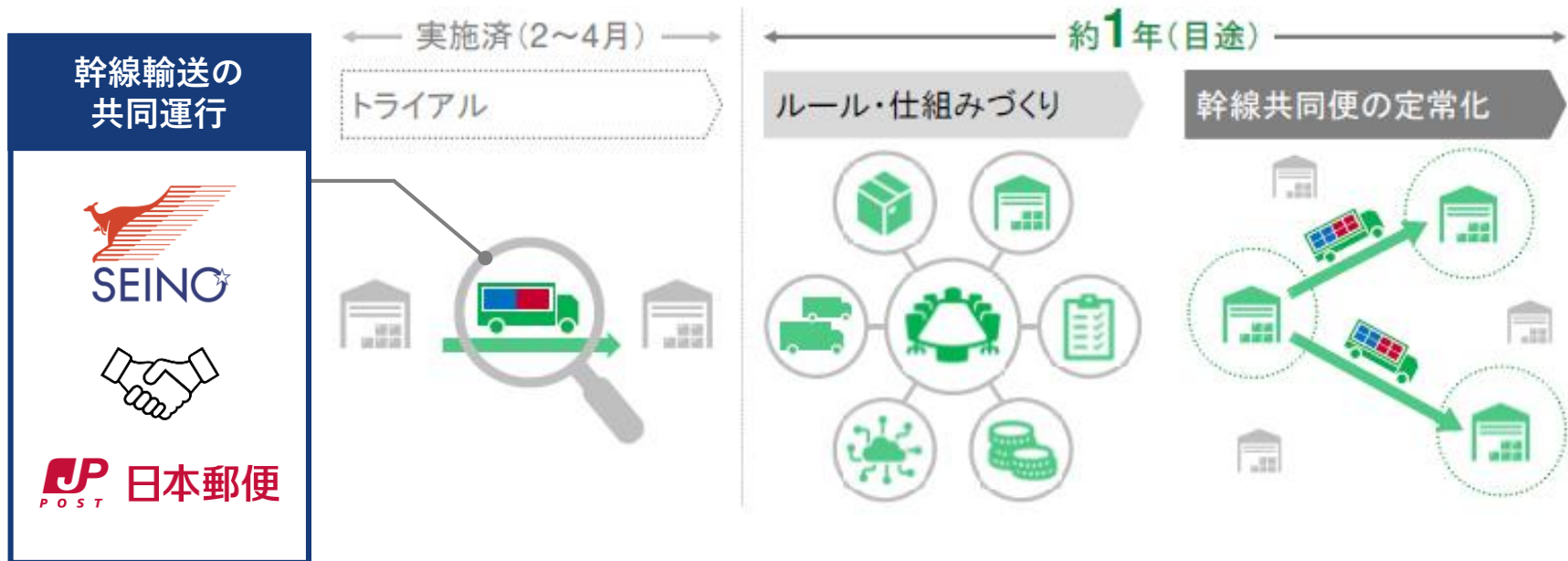
※西濃運輸単体

今後都心エリアなど東名大を中心に受託を拡大していく

特積み輸送 ～ O.P.P.の拡大～



- 2024年問題をはじめ、少子高齢化による人手不足を見据え、日本郵便様と幹線輸送の共同運行を目的とした業務提携について基本合意（2024.05.01）
- 輸送効率の向上・環境負荷の低減・お客様の利便性維持につなげ、物流課題に対応していく
- 共同運行の実現を皮切りに、幹線輸送に限らない共同化や協業についても検討することで更なる協業へとつなげていく



幹線の更なる効率化は両社共通の課題であり、
連携の輪を拡げフィジカルインターネットの実現へ

貸切輸送

～ デジタルプラットフォームの利用拡大 ～



- プラットフォームの質・量の強化を図り、より多くのお客様へ課題解決の提供へとつなげていくため、業界連携を先導し、業界の標準型として中小の運送事業者の持続的発展にも寄与
- 更に、高速道路料金など、運賃構成の見える化を進めることで業界の慣行改善につなげる

24.03期

登録事業者数： **20,000社** (JV前対比**37%増**)
登録車両台数： **57,000台** (JV前対比**47%増**)
配送件数： **300,000件** (前年対比**30%増**)



- ハコベルのデジタルプラットフォームが業界標準となり圧倒的な利便性提供へ
- 25.03期 登録車両台数**30%増**へ (対前年比)



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

お問合せ先

セイノーホールディングス株式会社 財務IR部

〒503-8501 岐阜県大垣市田口町1番地

TEL : 0584-82-5023 FAX : 0584-82-5043

<http://www.seino.co.jp/seino/shd/>

E-mail : i.r@seino.co.jp